平成 31 年度第１回大口町子ども・子育て会議

日時：平成 31 年４月２６日金曜日　13 時 15 分～15 時
場所：大口町健康文化センター１階多目的室

事務局（課長）：
［あいさつ・資料確認］［欠席委員報告］
田中委員（おやじの会代表）、水谷委員（主任児童委員代表）は欠席の連絡をいただいています。
PTA 代表、父母の会代表は今年度から新しい委員の皆様がおみえです。本来であれば、最初に委嘱状の交付をさせていただくところではありますが、時間の都合もありますので、それぞれ机の上に置かせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。
それでは次第に沿ってすすめさせていただきます。はじめに藤原委員長よろしくお願いいたします。
会　　長：［あいさつ］
事務局（課長）：　ありがとうございました。続きまして佐藤健康福祉部長よりご挨拶申し上げます。
佐藤健康福祉部長：［あいさつ］
事務局（課長）：［健康福祉部長　中途離席報告］

次第２　自己紹介

事務局（課長）：会長より自己紹介をお願いします。
委　　員：［自己紹介］
事 務 局：［自己紹介］

次第３：大口町子ども・子育て会議設置条例の概要

事務局（課長）：［資料　大口町子ども・子育て会議設置条例　説明］

次第４　報告・協議事項
（１）大口町子ども・子育て支援事業計画及び次世代育成支援行動計画の策定スケジュールについて

事務局（課長）：次の協議事項の議事進行については会長にお願いしたい。
会　　長：協議事項１スケジュールについて説明をお願いします。
事務局（山口）：［資料１　第２期大口町子ども・子育て支援事業計画の策定スケジュール　説明］
会　　長：ありがとうございました。
スケジュールについてご意見ありますか。
なければ、６回会議をさせていただくということでよろしいでしょうか。
全　　員：［了承］

（２）保育園及び幼稚園の利用状況について

会　　長：次に事務局より説明をお願いします。

事務局：説明に先立ちまして、本日、新しく委員になられた方には現行計画を見ていただければと思います。現行計画は平成 29 年度には一部改訂しています。

本町で策定している次世代育成支援行動計画は、他の自治体の中には作られていない自治体もあります。時限立法で平成 17 年から 26 年までの 10 か年計画として作ろうということで策定された計画でした。それがさらに 10 年、平成 36 年度まで延長されています。

このため、大口町でも次世代育成支援行動計画を残していこうとしています。では、なぜ次世代育成支援行動計画を残していこうとしているかというと、子ども・子育て支援計画は主に保育のサービス量をどうしていこうかという計画で、子育て支援の施策はそのほかにもたくさんあります。保育園だけが充実していれば良い子育ての町なのかといえばそうではありません。それは大事な部分であることは確かです。本町では次世代育成支援行動計画を策定し、そこに子育て全般の施策を位置づける計画を作ろうということです。

10 年以上前に策定した計画では「子育て文化」を前面に打ち出しています。みんなで子育てをしていかなければならない、その一つの要素として保育サービスもあるという位置づけになっているということをお伝えして、資料の説明をさせていただきます。

［資料２　保育園及び幼稚園の利用状況の推移について　説明］

（３）大口町子ども・子育て支援アンケート結果の概要報告について

事務局：［資料３　説明］

会　　長：聞きたいことがあればご意見、ご質問があればお願いします。

P5５ひとり親家庭の状況は、前回調査と比較してどのようになっていますか。

P9 子育てに関する不安は、前回調査と比較してどのようになっているのか、教えてください。

事務局：前回調査でひとり親家庭は 4.3％とほぼ変化はありません。

事務局（松山）：ひとり親家庭には、児童扶養手当、いわゆる母子手当を給付しています。具体的な数値は用意していないのですが、増えている状況にはあります。

事務局：P9 の子育てに関する不安の項目は前回 H25 調査では実施していません。H16 調査で実施していると思われるので確認します。（宿題）

P10 子育てにおける孤独感・孤立感は、H16 調査に比べて減っている状況です。次回にでもご報告させていただきます。

会　　長：支援をしてほしい人に必要な支援が届くような施策を考えていきたいと思います。どのようなことで悩んでいて、どのような支援が必要かを考えることを大事にしていきたいと思います。

子育て支援センターの利用者は多いけれど、子育てに関する相談は少ない状況です。利用者は多いけれど相談まではいかないようです。子育ての不安は持っているという

２％の割合は低いですが、本当の願いは何なのかを、相談内容の中身がみえてくれば助かるかなあと思います。

親の就労する人の割合が高くなっています。定期的な保育・教育サービスを利用していないと回答した人は３割あります。どういうことですか。

事務局：回答者に３歳未満児が含まれているからだと思われます。

纐纈委員：P5「主に子育てをしている人」が「父母ともに」が最も多くなっているのが、大口町ならではとの説明がありました。ふれあいまつりでもパパと一緒に来ている家族が増えていると感じます。

父親の就労場所が、比較的近隣にあることが多いのかなと思います。

フルタイムへの転換希望、育児休業を早く終えて復職している、母親の働きながらの子育ての悩みが見られました。

会　　長：これからの議論のベースになる内容を出しているのでぜひ意見を出していただきたい。

Ｐ９　３－５歳のお子さんを持つ方の不安感が高くなっています。

丹羽委員：私は３年生と年長の子どもがいます。保育園の時は悩みごとがあっても、毎日先生と相談ができました。小学校になると、先生と会う機会もなくて、さっぱりわからず、資料などについても細かく聞きたいことがありました。小学校に上がってからの１，２年生の時の方が不安を感じました。

私自身は、子どもが３歳未満児のときに児童センターのコアラセンターを利用していて、その時にママ友ができました。他の人の話を聞くと、コアラセンター等へ行っても、仲間ができあがっていて、入りにくいということで、行かなくなったという話も聞きました。楽しく参加できればよいのですが、ママ友ができないといって行かなくなったという意見も聞きました。

保育園は、毎日の送迎で顔を合わせる機会があるが、幼稚園はバス通園で、ママとの交流もないとも聞きます。

大脇委員：私もよく子育て支援センターや児童センターを利用しています。既に親同士の輪ができているとそこに入りづらそうな人もいます。センターの先生方も働きかけをしてくれていますが、その場はよいけれど、時間が経つと仲のよい人同士で輪になっていくということもあります。そういうことを見て、声をかけてあげようと思います。そのように思う人が多くいれば、もっと来やすくなると思います。

上の子どもが年長で保育園に通っていますが、友だちにけがをさせたらどうしようという不安もあります。一度、仲のよい人のお子さんをけがをさせてしまって、謝りに行ったりしたことがあったのですが、あまり仲のよくない人だと家にまで来られても困るという話を聞いたこともあります。親同士で仲よくない人の子どもにけがをさせたり、させられたりという不安もあります。

横田委員：私は、上の子どもが１年生、下の子どもが年中です。幼稚園のバス通園があると他のお母さんと接触がなくて、孤立している人もいるという話も聞きます。

また、子どもが３－５歳になると習い事の不安も出てきます。やらせた方がよいのか、経済的に難しいかな等と考えることもあります。

川端委員：子どもが生まれてから幼稚園に入るまでの間、祖父母の手助けを受けられない核家

族だったので、子育てをどうしたらよいのか不安が大きくありました。

私は子育て支援センターを幼稚園に行くように毎日のように利用しました。子育て支援センター先生方が、センターを初めて利用したときも働きかけをしてもらいました。先生方から子育てなどのアドバイスをもらっていました。

現在、大口町では子育て支援センター先生方は何人ぐらいいますか。

事務局（山口）：北児童センターに子育て支援センターを設置しており、そこに先生が４名います。

会　　長：大口町に引っ越して来て、困ったことはありますか。

川端委員：私は、隣の江南市に住んでいたので、大口町の子育てに関する豊かさを聞いていました。恵まれていると思っていました。

会　　長：そういってもらえると事務局は嬉しいと思います。

子育ての相談先として、幼稚園の先生はもっと増えてもよいのではと思いますがいかがですか。

田中委員：幼稚園８％となっています。現在の幼稚園に勤務する職員は 27 歳平均です。結婚・子育てを経験していない人が多いのです。このため、お母さん方からの相談に十分に対応できていません。お母さん方からは「先生たちもまだ結婚していませんし」と言われることもあります。

職員も結婚をして、子どもを育てて戻ってきてくれればと思っていますが、なかなか難しい状況です。この調査結果を見て「出たな」と思いました。

会　　長：通園バスの意見についてはどうですか。

田中委員：核家族化が進んでいて、通園バスについては、自宅付近までバスは行くと言っています。できるだけ親同士の交流のこともあり、乗り合わせをしてもらって、情報交換をできるようにという思いありますが、利用者のニーズは毎日のことなので、家の近くが良いという意見もあり、難しいところだと感じました。

中野委員：うちの園では一時預かりを行っています。その理由は、急な冠婚葬祭もあるが、お母さんのリフレッシュでの利用が最も多くなっています。

お子さんを預かる時に話を聞くと、悩み事を話し出すことも、疲れていると感じることもあります。話かけたり、相談窓口を広げたり、話したいというきっかけを作ることも必要だと感じます。情報発信が必要だと感じました。

会　　長：大事なことだと思います。

天野委員はいかがですか。

天野委員：特にありません。もう少し読み込みをさせていただきたいと思います。

会　　長：次回を楽しみにしています。

宇野委員：ひとり親の関係で、社協でひとり親対象のアンケートを取ると、同じ境遇のひとり親同士で話す場が欲しいという意見があります。

毎年、ひとり親家庭を対象に旅行に行くときに、食事をする場をそのような機会として設定しています。

児童センター、社協でも子育てサロンをしています。地元の児童センターでは輪に入れなかった人が来て、広域を対象に行っている子育て支援センターやサロンならば参加できるという意見もあります。

倉知委員：自分は大口町で生まれ育ち、子育ては江南市でした。大口町では何でもしっかり買い与えられている、一方で江南市では保育士さんの手作りで行われている状況を見て、買い与えられていることがすべて OK なのかという疑問を持ちました。しかし、大口町は子育てについて充実していると感じていました。

服部委員：自分が子どものときに、子どもだけで名鉄バスに乗って、途中で降りてそこからは歩いて保育園に通っていました。保育園の引っ越しがあり、みんなで並んで積み木をもって、荷物を運んだ覚えがあります。保育園に行くのが楽しみで通っていました。

会　長：とてもローカルな話題でした。

岩根委員：広場で輪に入れないという意見は私たちも気をつけなければいけないと感じました。センターやサロン、NPO 団体のサークルなど様々なものがあるので、試してみてほしい、そうすれば合うところに出会ってもらえるのではないかと思います。お母さんたちに情報が届くように努力しなければいけないと感じました。

Ｐ72　病児保育の設問の中で、「親が仕事を休んで対応したい」という選択肢があるが、これができる環境にあるのかを知りたいと思います。職場が休みやすい環境にあるのか、企業側に聞いてみたいと思いました。

会　長：要望ですね。すぐには答えられないですね。

事務局：はい。

事務局：「親が仕事を休んで子どもの世話や通院に対応したい」ということが、許される状況にあるのかなと思います。前向きにとらえることができます。

サービス化しすぎてしまうと子育て文化は育たないということも一面もあります。

ただし、子どもが病気のときでも苦労して職場を休んでいる環境があるのであれば、サービスは必要です。

副会長：企業がそういう体制になってほしいなという思いがあります。今後は企業側の視点が子育てを考える上では重要になってくると思います。

子どもの病気での休みが１日であればよいのですが、感染症などでは１週間の休みが必要です。そのような休暇が保証されている、取れる環境になってほしいと思います。

会　　長：とても良い話でした。病児の時の子どもの気持ちを考えて、とても人間として当たり前の環境です。何でもかんでもサービスがあればよいということではないという意見もありました。

今回の会議のように子育てに関する意見をフランクに出しながら、大口町らしい計画をつくっていきたいと思います。

次第５　その他

会　　長：事務局にお願いしたい。

事務局（松山）：［資料　保育園・幼稚園等の主食代及び副食代の方針について　説明］

会　　長：委員のみなさんの方からお伝えしたいことがありますか？

なければ、第１回の会議を終了したいと思います。

事務局（課長）：名簿は差し替えをさせていただきたい。

第１回会議を終了させていただきます。ありがとうございました。